

# CHOUZ

チョウズ

CHOUZとは「長ずる」の日本古語で「成長する」という意味があります。  
本学は、学生の皆さんが自分の目指す保育者へと成長する過程をともに歩んでいきたいと考えています。

- 特集：OKFの先生
- OKF授業紹介
- 2024年度卒業研究紹介
- キラリ仕事人  
先輩たちに聞く！



地域と共に育つ



2025.6  
VOL.12  
TAKE FREE

OKF

大阪健康福祉短期大学

保育・幼児教育学科  
(松江キャンパス)

## 特集：OKFの先生 加藤友彦 教授（芸術学）

保育者に必要な造形表現の知識や技能は、子どもの健やかな育ちを支えるために、美術の基礎知識を学び、子どもの発達に適した表現活動を援助することです。

私の授業では、保育・幼児教育の中で盛んに行われている造形表現活動を体験し、その中で美術の知識や技能を習得します。そのひとつに、壁面構成の製作があります。保育・幼児教育学科のキャンパスは、結婚式場を改装した特異な建築空間となっています。この空間を利用した学習活動を、本学科開設2年目より実践し、現在も、1年次の学習として継続しています。

2024年度は、この壁面構成をテーマとして研究を行いました。2019年度から2022年度までの学習活動をまとめ、さらに2023年度の学習活動については詳しく分析し、考察しました。その結果、壁面構成の学習を通して、協同的に学ぶことができ、学習に対する満足度も高いことが明らかになりました。



そして、工夫して表現する力や、他者の表現のよさを感じ取る力が身につく、さらに、子どもの表現の取入れる方法を考えることにもつながりました。壁面構成の学習効果はあったと考えます。

この研究成果は、第73回 日本美術教育学会 学術研究大会 静岡大会（2024年8月）で発表しました。

私の、もうひとつの研究テーマは、視覚芸術としての絵本研究です。2024年度は、1990年代を代表する絵本群である「イメージの森」シリーズの研究を行いました。絵本の読者を子どもに限定せず、大人まで拡大しようとしたこのシリーズの成立過程を調査し、絵本作品の特性を明らかにしました。こちらは、研究ノートとしてまとめ、大阪健康福祉短期大学の紀要『創発』第24号に掲載の予定です。

### OKF授業紹介



#### 総合表現



この科目では毎年地域の親子向け表現イベントを開催しています。今年は絵本の世界を表現することに決め、12月のイベントに向けて7月頃から準備に取り組んでいきました。テーマとする絵本が決定すると、次は「子どもたちはどんな内容だと楽しめるかな？」と子どもたちの視点に立って内容を考えます。グループごとに分かれた学生たちからは大きな黒板が埋め尽くされるほどのアイデアが出てきました。

準備に取り掛かる期間、学生たちの表情は、それは生き生きとしています。誰かと一緒に協力して作り上げること、完成したものを試しながら遊んでみる、リハーサルを通じて内容を見直すこと。様々な経験を通して、保育者を志す学生が技能を高めていく様子が伝わってきました。



#### OKFのいえ

「総合表現」という科目で約半年間をかけて準備に取り組んだ結果、12月14日（土）に「OKFのいえ」を無事開催することができました。テーマにしたのは、いわいとしおさん作の有名な絵本、『100かいたてのいえ』。当日は衣装づくり、手作り楽器、巨大迷路、コンサートと4つのブースが出来上がりました。どのブースももちろん、絵本の世界観が大切にされ、登場する生き物の衣装を着た子どもたちが行き来する光景はとても微笑ましいものでした。巨大迷路では学生の手作りスタンプラリーも用意され、それをクリアしていくことも楽しみの一つ♪また、イベントの後半には30分間のコンサートが開かれ、一緒に手作り楽器を鳴らしたり、踊ったり...会場全体が一体となる温かい時間が生まれました。

今年はどんな世界を創ろうかな？みなさん、どうぞお楽しみに...✿

# 2024年度卒業研究紹介 卒業研究を終えた2年生にインタビューをしました。

松江市立皆美が丘女子高等学校卒業  
松本優希



『子どもの言葉の獲得が遊び場面における2歳児の他者理解に与える影響』

## 1. 研究の概要

子どもが他者の気持ちを推測したり共感したりすることは4歳頃に発達すると学びましたが、それ以前の年齢から保育者の助けを借りて、他者の気持ちを理解しようとするのではないかと考え、2歳児の他者理解について研究を行いました。

## 2. なぜ興味を持ったのか

1年生の頃の保育実習で、子ども同士のいざこざがあったときに、年齢が小さいと保育者は子どもの気持ちを代弁しようと試みます。このような保育者の共感的姿勢が、子どもの様々な成長を支えているのではないかと疑問に思ったのがきっかけです。

## 3. 学んだことをどう活かすか

保育者の言動が子どものごっこ遊びに繋がることを実感しました。子どもの見本となるだけでなく、遊びを通して様々な経験ができるように、子どもの遊びの変化に繋がるよう保育現場で実践していきたいです。

## 4. これから保育士・幼稚園教諭・児童福祉施設勤務を目指す人たちへのメッセージ

保育者は子どもから笑顔と元気をもたらえる、とてもやりがいのある仕事です。自分の思うようにいかず、大変なこともたくさんあります。しかし、子どもと関わることで自分が笑顔を与えるだけでなく、子どもからも笑顔を与えられて、乗り越えられるとても魅力的な職業です。

学校法人永島学園出雲西高等学校卒業  
梶谷心葉



『乳児期のふれあい遊びとその効果』

## 1. 研究の概要

私は「乳児期のふれあい遊びとその効果」について研究しました。ふれあい遊びは、保育者と子どもがリズムに合わせてスキンシップをとり温かさや心地よさを実感する遊びです。

## 2. なぜ興味を持ったのか

このテーマを選んだ理由は、保育実習中、ふれあい遊びを終えた乳児と保育者が、生き生きと笑顔で次の活動に取り掛かる姿が見られ、ふれあい遊びを通した乳児期の愛着形成について知りたいと思ったからです。

## 3. 学んだことをどう活かすか

研究では、乳児担当保育者2名に、心の栄養となるふれあい遊びの内容や効果についてインタビュー調査をしました。表にまとめ比較・分析をしたところ、コミュニケーション能力や共感性、対人関係の基盤となり、保育者も子どもも情緒が安定する効果があることが分かりました。ふれあい遊びで芽生えた特定の保育者との愛着や基本的信頼感は、将来の人間関係や社会生活に役立つので、現場でも活かしていきたいです。

## 4. これから保育士・幼稚園教諭・児童福祉施設勤務を目指す人たちへのメッセージ

私は、幼い頃から地域の方々に優しく見守られ、支えられてきました。その温かさに感謝し、今度は私が保育者として子どもの成長を支えて、地域に恩返しをしていきたいです。社会全体で子どもの豊かな成長を支えていきましょう。

島根県立出雲商業高等学校卒業  
石田来俊



『子どもの発達に応じた造形表現活動の効果～自然物を用いた5歳児の表現活動～』

## 1. 研究の概要

5歳児を対象とし、子どもたちと一緒にドングリや落ち葉等の秋の自然物を集め、それらを使いオリジナルの箱庭制作を行いました。子どもたちが五感を通じて、知能や身体の発達を促すことにつながり、他者とのコミュニケーション力を伸ばし、想像力等を豊かにすることができました。表現活動は、子どもの日常活動を糧に、次の活動へとつなげ、日々の成長を支えとなる意義を考察しました。

## 2. なぜ興味を持ったのか

実習を通して、子どもたちの造形表現活動を見てきました。その中で子どもたちの豊かな想像力や発想に驚かされることがあり、子どもは何を考えて表現活動に取り組んでいるのか、また表現活動を通してどのような影響や効果があるのか興味を持ちました。

## 3. 学んだことをどう活かすか

今回の研究から、造形表現活動は子どもの心身の発達を促し、その経験がよりよい成長につながるということがわかりました。保育者として働く際は、子どもたちと一緒に様々な造形表現活動を行い、お互いに発見をして学び、子どもたちと共に成長していきたいです。

## 4. これから保育士・幼稚園教諭・児童福祉施設勤務を目指す人たちへのメッセージ

保育者は、子どもの成長を支え、導く非常に大切な職業です。保護者の方が安心して働くことができ、地域の人たちと交流が増える等々、なくてはならない、やりがいのある仕事です。自信と誇りを持って、堂々と進んでいってほしいです。

# キラリ仕事人 先輩たちに聞く！



## 土井千明 さん

鳥取県立  
境高等学校卒業

米子福祉会  
成実保育園 勤務  
第2期卒業生



## 松浦悟 さん

学校法人大多和学園  
開星高等学校卒業

松江福祉会  
放課後等デイサービス  
ぽっぽ 勤務  
第5期卒業生

### 1. 大学での学びの中から仕事で役に立っていることは？

大学で子どもの姿から考察する力を身に付けたことで、現場でも子どもの行動から振り返り、次の保育につなげることができています。

### 2. 現場に出て思ったこと

職員同士が連携することの大切さです。どんなに細かいことでも情報共有や相談をすることで、子ども達への質の高い保育が提供できると感じています。

### 3. 仕事で心がけていること

子どもたちにとって保育園で過ごす時間が安心できる場であるよう、子どもの思いを受け止めることを必ずしています。そして、「明日も保育園に行きたい」と子どもたちに思ってもらえるような明日につながる保育ができるよう日々努力しています。

### 4. みなさんへのメッセージ

保育の仕事は子どもの成長を間近で見ることができる素晴らしい仕事です。大変なことももちろんありますが、その分成長することができています。保育の場で一緒に活躍できる日を楽しみにしています。

### 1. 大学での学びの中から仕事で役に立っていることは？

子どもの目線で物事を考えることです。子どもの気持ちを理解する上でも大切なことですが、何か活動を立案するときにも子ども目線で考えるのは非常に大切だと現場に出て実感しています。

### 2. 現場に出て思ったこと

現場に出ることではか得られない経験が多くあると思います。個人的には大学での実習は部分的なことしか体験していなかったのだなという感覚になりました。学びの多い日々ですが、毎日楽しみながら仕事をすることができています。

### 3. 仕事で心がけていること

子どもがこちらに本音を発信できるような関係性を作っていくことです。これは保育でも療育でも必要な関係構築の一つだと考えています。

### 4. みなさんへのメッセージ

実習をするうえで大きな不安を抱えることもあるかもしれませんが、何事にも全力で取り組もうとする気持ちがあれば子どもたちは笑顔で「○○先生！」と集まってくれると思います。失敗も成功も保育士にとっては大切な経験です。楽しみながら頑張ってください！

CHOUZ(チョウズ)12号  
2025年6月1日発行



〒690-0823  
島根県松江市  
西川津町4280



ホームページ



問合せ



OSAKA, KENKOU FUKUSHI MATSUE

発行者：学校法人みどり学園  
大阪健康福祉短期大学  
保育・幼児教育学科（松江キャンパス）  
TEL:0852-67-3716 FAX：0852-67-3805  
ホームページ <https://www.shimane.kenko-fukushi.ac.jp>